

少年の主張

平成25年度 最優秀賞

命を守る自転車免許証

八百津中学校3年A組 平 尾 爽 香 さん



私が通っている八百津中学校は、県下初の「自転車運転免許証」を導入した学校です。みなさんは、自動車に免許証があることについては、当たり前だと思いませんか？

しかし、自転車に免許証があることについては、どう思いますか。たぶん多くの人が必要ではないと思うのではないのでしょうか？きっと、その多くの人たちが、「自転車なんか教えてもらわなくても、勝手に乗れるようになったから」「自転車で事故に遭うことなんかないから」と答えるのではないのでしょうか。

しかし、平成24年度の自転車の交通事故件数は13万2,048件で、交通事故件数に占める割合は約20%です。また、自転車による死傷者数は13万1,762人と交通事故全体の死傷者数に占める割合は16%と高い数値を示しています。ここからもわかるように、自転車事故は、命に関わる大きな問題であるのです。また、だれもが自転車の事故に遭う可能性があるのです。そんな私も、去年の7月30日に八百津町内で友達が車と接触事故に遭ってしまうという悲しい体験をした一人です。

その日は、昼からの部活、私は仲の良い友達と自転車に乗って部活に向かっていました。いつも通りの会話、いつも通りの道、いつも通りの暑い日差しの中、聞き覚えのない大きな音がしました。

「ドーン」

「・・・え？」と思い道路を見ました。

「うそでしょ」

その言葉と同時に、私は自転車を放り投げて走っていました。友達が車にはねられたのです。私は、友達の名前を必死に叫び続けました。何度も何度も。でも、いつもの笑顔で、いつもの声で返事をしてくれません。それどころか、動いてくれないのです。心臓がドクンとはねました。その時、私は思いました。

「私たちだけではどうすることもできない。大人の人、助けを呼ぼう。」私は、もう一人の友達と一緒に、学校まで全力で走りました。階段を駆け上がり、先生を必死で呼びに行きました。そして、事故現場にもどると、そこには救急車が来ていて、友達が運ばれているところでした。友達が運ばれた後、一緒に登校していた私たち3人は、先生や警察の人から事情聴取を受けました。

「なんで事故がおきたの」

「友達はどこまで飛ばされたの」色々聞かれたのに、私たちははっきりと答えることができませんでした。あまりにもショックが大きすぎて頭の中が真っ白になっていたからです。事情聴取が終わった頃に友達の命に別状はないと連絡が入ってきました。本当に安心しました。涙が後から後からあふれて、本当によかったと思いました。でも、その後の検査で2カ所の骨折と打撲で、全治1ヶ月の入院であると聞きました。幸いにも、ヘルメットをかぶっていたおかげで、車のフロントガラスにぶつかっても命が助かったそうです。

私たちの学校では、今回の事故をもとに、全校で「自転車免許制度」を導入することになりました。こうした事故を2度と起こさないためです。まずは、自動車学校の先生に来て頂いて全校で法令講習会を行いました。交通法規やブレーキのかけ方などの自転車の乗り方を教えて頂きました。また、学校では学科試験も行われました。最後に、自動車学校に行き、実技試験を受けました。スラロームや、一本橋、実際に自動車が走る中で、試験が行われました。私は、無事に合格することができ、免許証をもらうことができました。とても嬉しかったです。

しかし、免許証をもらったからといっても事故が減るわけではありません。そこで、私は、事故を2度と起こさないために、友達と交通ルールを守る約束をしました。横断歩道では、必ず自転車を降りて、左右を確認すること。さらに、友達と並進運転をしないことです。今回の事故でも、私たちは、友達と会話をしながら並進していたことで車に気づくことに遅れてしまいました。「大丈夫だろう」という心の油断が、こうした事故につながってしまったのです。「大丈夫、少しの油断が事故を呼ぶ」私は、心にいつもブレーキをもち、自転車のハンドルをにぎりたいです。

私は、今、生徒会執行部をしています。だからこそ、私にできることは、交通事故を減らすために、交通ルールやマナーを守ることを全校に呼びかけていくことだと考えています。もし、仲間が交差点で自転車に乗ったまま渡っていたら、もし、仲間が並進していたら、勇気を持って呼びかけたいです。そして、この思いを全校のみんなにも知ってもらって八百津中学校を県下一の安全な学校にしたいです。